

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101803		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島		
所在地	大阪市淀川区加島4-17-29		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同じ様な寛ぎを持てる。持てる力を活かし本人が希望する生活が送れるように努力している。職員が常に気付きと問題意識を持てるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体の(株)カムネスライフは医療法人健和会の医療で培った知識と技術に介護を取り入れて、大阪府下や奈良県下に地域密着型サービス「ここからグループ」を展開する法人である。当ホームは、平成18年3月にJR東西線加島駅から徒歩5分の地に開設された。3階建てビルの2・3階部分(2ユニット)からなり、1階にデイサービスを併設している。尊厳を重んじる介護計画に基づき、理念どおり「地域に根ざし地域と共に生活できる環境を提供」し、「心身ともに健やかで楽しく過ごせるように援助」するサービスが提供され、利用者は穏やかに暮らしている。運営推進会議や家族会に大半の家族が出席し、積極的に意見を述べている。健康管理に対する家族の信頼も厚く、ホームでの看取り介護も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝加島の理念を申し送り後唱和し目の届く所に理念を掲げている。	事業所の理念「地域に根ざし地域と共に生活できる環境を提供します。心身ともに健やかで楽しく過ごせるように援助します」を施設内に掲示し、毎朝のミーティングで唱和して理念の共有を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃に参加し、古紙の回収などに協力している。盆踊り、祭りなどの参加、買物も出来るだけ地域で行い挨拶など積極的にしている。消防訓練にも今年度から地域の方が参加して頂く様になっている。	事業所は町会に加入し、地域の一員として清掃や古紙の回収に協力している。盆踊りや祭りへの参加、公園への散歩や買物などで、地域の方々と交流ができるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や理髪、買い物時に声かけをして行きはなしをするようにしている。訪問美容なども地域の方に来て頂き、時間があればグループホームの事など話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日課、食事の紹介(写真)、催し、や事故報告、研修や職員のスキルアップへの取り組みなども報告し、意見があれば翌日のミーティングで報告し解決対応をしている。	入居者、家族、町会長、地域包括支援センター職員、民生委員などの出席を得て、2ヶ月に1回、会議を開催している。事業所からの報告や相談に対し、出席者から意見や解決策が聴ける双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば区役所には連絡するようになっている	区役所窓口とは、介護保険の申請や公害手帳・障害者手帳の申請に係わる手続き、利用者の家財道具整理の相談など、多岐に渡る相談事で日頃から連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については交通事情もあり締めているが他は自由に行き来出来る様にしている。基本的に拘束とは何を示しているかを職員が認識できている	身体的拘束検討チームの中で研修を重ね管理者及び職員は身体拘束への弊害も理解し家族にも伝えている。交通事情により玄関は施錠しているが、1階～3階までエレベーターを含め行き来を自由としている。	認知症や拘束に対して職員達は認識や理解が深まっているが、更にステップアップするための研修を重ねることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修も徹底と話し合いをしている。また大阪市内に虐待についての告発があり監査が入っている。実際には認められなかったがこの機会に職員一同が虐待について考えを新たにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についてもその人の自立支援について話し合いをしプランに行かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明と退去についても納得できるような方法を話し合いをしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、手紙などで近況をお知らせしたり、細かに状態をお知らせし又、意見なども聞いている	利用者や家族が意見や要望を表す機会として、意見箱、苦情相談窓口、運営推進会議、家族会などを設けている。家族が訪問時には意見を聞くようにしている。これらの意見・要望等は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを設け意見を聴く機会を設けている。又、個人面談をしレベルアップの為に個人を大切にしている	毎朝の職員ミーティング、月1回のフロア会議で、職員の様々な意見・提案を聞いている。また、年2回の個人面談でも、より詳細な意見・提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週の状況報告で各施設の状況把握をしている。また、年1回は職員との親睦会を設け直接意見を聞く場も設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週1回会議を設け代表者は知る会を設けている。又、研修などの予算を惜しまないで協力してもらっている。研修報告はすべてに目を通してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの会が3ヶ月に1回あり意見交換など行っている。また勉強会にも毎回職員が参加出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の希望、自立への支援などを中心に納得のいくまで話し合いをし、本人の側に立ったプランを進めている。本人の不利益にならない進めを話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を傾聴し、今までの経過を十分に理解できるようにしている。またいつでも相談窓口として開けている事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリ、ディケアなど必要時に利用できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に生活する仲間として存在している位置におり、洗濯物の片づけや日常生活の中で役割を持って頂く様にしている。出来る事はして頂く様に支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議への参加、また細やかに生活の状況などを報告し、ご家族の希望や気付きを活かす様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが生活されていた場所や周辺を散歩など行くようにしている	これまでの日常生活の継続性を確保するため、公園や商店街への外出支援、自宅での法事や墓参りの支援など行っている。通いの場やホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてくれる頻度が少なくなっている。	通いの場やホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来てくれる頻度が、23年度(数日に1回程度)から24年度(たまに)へと減少している。関係が途切れないように支援が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの位置、椅子などを活かし、対話ができる様に配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	はがきや、手紙などを出し近況を伺ったり困ったときの相談窓口としていつでも開く様にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えを傾聴し、本人の立場に立ったニーズを考え、プランに活かしている。また毎日のミーティングで気付いた事を話し合いをしている	生活記録や日々の関わり等により、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。本人が黙っていたり、把握困難な場合は、家族の意見を聞いたり、本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を大切にしご家族からも情報を収集している。喫煙、飲酒なども今までと同じ様に嗜好品として継続して頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、又ミーティング、申し送りなどで把握できるようにしている。臥床を希望される方には出来るだけ希望に寄り添う様にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろからの職員の意見を参考にし、サービス担当者会議で意見を聞いたり、記録から状況を把握できるようにしている。介護計画は皆で取り組む物である事も理解している	利用者及び家族から思いや意見を聞き、職員全員で意見交換し、介護計画を作成している。見直しは3ヶ月に1回を基本とするが、毎月実施するモニタリングで変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録を心がけている。記録をしながら個人のプランの把握をし、今後の活動に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の存在を活かし、変化があればその都度話し合いサービス内容を変化させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物、散歩、喫茶店、散髪などできるだけ地域の中で過ごせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と受診とわかれているが本人が行きたい診療場所に行っていただく様に支援している。	本人及び家族の希望する医療機関を、かかりつけ医としている。訪問診療や受診の選択についても、本人や家族の納得と同意を得て、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態で訪問診療を受けている方は報告をこまめにしている。また、何時でも連絡を受け適切に指示できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時退院の受け入れをきちんとする旨を医師・家族に話している。病院の面会についてはご家族の納得の上でこまめに面会し、医師の話聞く様にし、早めの退院を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りをしている事を話し、最後の話もする様にしている。出来るだけ入院ではなく施設で最期を過ごせるように、医療連携の病院と相談している。	入居の契約時に「重度化した場合の対応のあり方についての指針」を家族に説明し、早い段階から方針の共有を図っている。看取り介護の際は、医療連携病院と相談しながら、利用者や家族が納得出来るように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について研修をするようにしているが、実際には問題もあると考える。研修を積み重ねることで実践力向上できるようにして行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、防災訓練を行い、一番安全な方法を考えている	避難訓練や消防訓練を年2回、1回は消防署の指導下で、残り1回は夜間想定自主訓練で行っている。消防署と直通回線がありスプリンクラーも設置している。備蓄も万全である。地域住民の協力体制構築が不十分である。	夜間に於ける火災、地震の災害対策については消防署や運営推進会議を通じて具体的に訓練・対策を講じると共に、地域住民の協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、食事のときなど特に個人のプライバシーに繋がる言葉について注意している。	勉強会で言葉掛けや対応について話し合い、利用者の尊厳を尊重したケアに努めている。個人情報保護規定を定め、個人記録の取り扱いや保管に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉を大切に言葉で表出できる方も特になのモ訴えが表出出来ない方もその動作や表情から思いを理解出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ過ごしたい要望を聞き、お部屋で過ごしたい希望はその様にしている。業務優先ではなく利用者の生活優先で支援しており、業務の時間毎マニュアルを作成していない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪をとき、化粧水を希望される方は何回でもぬれる様にしている。外出時の着衣はおしゃれに気を使っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい希望を聞き出来るだけ好みに応じた食事を提供できるようにしている。片づけの出来る方は食事の片づけをお願いし、皮むきや海苔巻など一緒にできる事はしている	給食業者の食材を事業所の厨房で調理して提供している。週1回は利用者も一緒に買物に出かけて献立を決め、お楽しみ料理の日としている。職員は介助をしながら、食事を一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は時間に食べれない方はその人の食事時間を創り希望の時に食事が出来る様にしている。又、朝はゆっくり休んで頂き起きた時間が朝食になる様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがい、出来ない方は緑茶で口腔内を綺麗に拭き口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎の排泄誘導とオムツを使用している人も全員トイレ誘導をしてトイレでの排泄を目指している	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、さりげなくトイレ誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食品をおやつに提供したり、水分補給に注意をしている。朝一番に冷たい牛乳を飲んで頂いたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ入りたい時間に入っている。夜は17時ごろまで希望を聞き、無理に進めないで入りたい気持ちを大切にしている	毎日風呂を用意し、週3回の入浴を心がけて、9時から17時までの好きな時間帯にゆったり入浴できるよう支援している。機械浴も可能である。状況に応じて、清拭や足浴等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の生活を充実し夜間の入眠が出来る様に支援している。皆一斉に居室に入るのではなく、テレビを見たりお茶をしたり眠たい人は居室へ誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については看護師が管理し、異常があれば対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については喫煙飲酒などを本人の希望に合わせて支援している。また食事で食べられない物がある時は変わりの物を準備している。出来るだけ趣味を生かせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法事など希望があれば職員が付き添い、家族と協力し段差のある家でも方法を考え帰れるように支援している。季節を大切に戸外に出かける様にしている	一人ひとりのその日の希望にそって、公園へ出かけたり、スーパーやコンビニに買物に出かけたりしている。季節を大切に、梅、桜、菖蒲など、季節の花を観に出かけるようにしている。法事で自宅へ帰る支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については出来る方は自分で管理して頂き買い物時に支払いをしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方については自分でして頂ける様にし、手紙セットを作成しいつでもかける様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所をわかる様に大きく書いたりソファなどで工夫している	共用空間である玄関・廊下・食堂兼居間は明るく、ゆったりとして広い。浴室・トイレは清潔に保たれている。食堂兼居間にはテーブルと椅子、大きなソファがあり、ゆったりと寛げる。ベランダは広く、洗濯物を干したり、花や野菜のミニ菜園を楽しめる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームで座る場所の工夫をしたり、話しが出来る様に椅子を変えたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある物を持ってきて頂いたり生活上の延長で畳の生活や、座れるような工夫をしている	居室は冷暖房機、ワードローブが設置され、ベッドはレンタルである。利用者の生活習慣を考慮し畳を敷いて和室風に変えたり、テレビやダンス等、馴染みの家具を持ち込み利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやところどころに椅子をおき歩ける環境をつくり、どこでも自由に行き来できる場所を提供している		